

第1回タスクフォースでの科学技術の取組に関するご意見への対応状況

資料1-2

| 該当PJ | ご意見 | 対応状況 |
|------|---|---|
| 1 | 空港でロボットが挨拶してくれるなどの取組 | 会場案内や情報提供を行うロボットへの多言語翻訳サービス等を検討 |
| 3 | 日本に来たら健康診断もできていたなんて技術も良いのでは | ウェアラブルセンサ等のレンタル体験により大会観戦中に簡易健康診断を実施する等のサービスについてアイデアとして挙がっている。 |
| | 観客が100m選手の心拍数を把握できたり、各マラソン選手にドローンがついて撮影などの取組 | 科学技術により障害者が健常者と分け隔てなく同じように活動できるような社会を実現するコンセプトについてアイデアとして挙がっている。 |
| | 高齢化問題など、日本が世界に先んじる問題を抱える中で、途上国が先進国を手本にできる大会としてほしい | 科学技術により高齢者や障害者ができるだけ自らの力で様々な物事にチャレンジできる機会を促進することにより、介護者、要介護者双方が健康的な生活を送ることができると社会を実現するコンセプトについてアイデアとして挙がっている。 |
| 3,7 | 日本全体で、地域で暮らす高齢者や障害者の声を聴きながら、テクノロジーも含めてユニバーサルデザインを進めてほしい | 安全・安心なまちづくりや人が流れやすい都市構造等の、大会後も活用可能な枠組みや知見を提供できるようにすることを検討中 |
| 4 | ④(公共交通)と⑥(災害対策)は竜巻が起きた際にビッグデータでどのような避難ルートが良いか検討できる | (オリパラPJ(ART)には含んでいないが、SIPで取り組む地図の高度化が実現できれば、刻々と変わる状況を考慮した、最適なルート案内が可能となり、避難ルート誘導に応用することも期待できる) |
| | ④(公共道路交通)とバス内のWiFi | (バス内WiFiはバス事業者のサービスとして提供されつつある。都バスも全路線で実施中) |
| | 交通分野でM to M中心で車間距離を自動的に調整する技術 | PJ4を実現する要素技術の一つであり、C-ACC(Cooperative Adaptive Cruise Control)等の研究開発に取り組んでいる |
| 5 | 水素バス | 燃料となる水素の生産や貯留、流通、供給等の取組を検討するとともに、大会期間中のバス運行に関する経路や本数等が決まり次第、スポンサーとの連携による実装を検討。 |
| 7 | ⑦(サイバーテロ)と⑧(超臨場感)も似ている施策 | データを収集・蓄積・活用する際のサイバーセキュリティについて、本プロジェクトの根底を支える技術として検討中 |
| | サイバーセキュリティオリンピックなどがあってもよいのではないか。 | データを収集・蓄積・活用する際のサイバーセキュリティについて、本プロジェクトの根底を支える技術として検討中 |
| | パターン認識等の取組 | 急病人や高体温の人、不審な動き等の早期発見を検討中 |
| | IRTについて、すべて一体化して取り組んでいく例 | 幅広い様々なサービスの実現に資する技術を検討中 |
| 8 | 選手を探すのに苦労することが多く、選手にチップを埋めこんで位置をピンポイントで把握してはどうか。その技術はセキュリティにも使って運営の効率化も図れるほか、災害や誘拐事件等にも利用できる。 | ピンポイントでの位置把握について、係員等を対象として検討中 |
| | チケットで長蛇の列ができるのも問題。ETCのような対策ができないか | 会場やその周辺の人の流れをスムーズにすることを、実現サービスの一つとして検討中 |
| | 観客は大変。常に渋滞する解除付近の混雑を解消するために、客からみて人の偏りを解消する技術等はできないか | 会場やその周辺の人の流れをスムーズにすることを、実現サービスの一つとして検討中 |
| その他 | 電子ペーパー技術で、カード1枚の画面が多様に変わっていく技術等はどうか | 新たな製造技術を用い、低コストで実現できるチケット・パンフレットにも応用可能な電子ペーパーを検討 |
| | プロジェクションマッピング技術 | 移動する物体にも動画を表示できる新型プロジェクションマッピングを検討 |
| | 選手村をDC(直流)オンリーのテストケース | (検討中) |
| その他 | 電池技術の利用 | SIP(エネルギー・キャリア)でアンモニア燃料電池の研究開発を推進しており、大会での実証にむけて検討を進める。 |
| | 情報の拠点、交流の場作り | (検討中) |